

## 1 学校教育目標

21世紀に生きる、心身ともに健康で、思考力・判断力・行動力があり、自立し共生しようとする心情あふれた児童を育成するため、人間尊重の精神に基づき次の教育目標を設定する。 ○やさしい子 ○考える子 ○元気な子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔のある学校⇒夢や希望、笑顔での挨拶、お互いを思い合い感謝できる</li> <li>・あたりまえのことを大切にできる学校⇒返事、学習規律、ルールとマナー</li> <li>・互いのよさを学び合い、教師間協働ができる学校⇒協働意識による学年全体の向上、学校運営参画意識の高揚</li> <li>・地域・家庭に信頼される学校⇒生命の尊重、安全で衛生的な教育環境</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やさしい子⇒思いやりの心で自他の存在を尊重し、互いの関わりの中で高め合える子</li> <li>・考える子⇒基礎・基本を身に付け、見通しと振り返りによって自らの学びを進められる子</li> <li>・元気な子⇒すすんで心身を鍛え、健康と安全について考えながら生活できる子</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情熱と使命感をもって、常に子供を中心に据えた指導を展開する教師</li> <li>・子供の目線や立場に立ち、その子供の良さを引き出し、子供の自己肯定感を高める教師</li> <li>・社会や時代の要請を敏感に捉え、自己啓発に前向きな教師</li> <li>・教師間協働により、学校経営参画意識をもち学び育て合う教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○【児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着】「児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着」を目指して、学力向上プランに基づいて取り組んできたが、年度末の目標達成には及ばなかった。学力ポートフォリオを活用した研究授業と研修会をもとに、全教員で検討・確認・共有を行いながら授業改善に努めることはできたが、さらに研究の成果を日常の授業準備や教材研究に具体的に色濃く反映させていく必要がある。漢字の読み書きや語彙の修得、朝読書、四則の計算練習、かけ算九九検定等を通じた基礎基本の徹底により、学年や学級間の学力格差というもう一つの課題改善に向けて組織的に取り組んでいく。

○【人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止】全学年児童による本校の特色である「あいさつ活動」、年間を通じて展開している「言葉づかい重点週間」は、児童が他者に対する自らの言動を振り返り、意識を高めるための有効な機会となっている。また児童が生活を共にする学級集団の望ましい成長は、いじめの未然防止や授業での学力獲得の土台となっていくものである。いじめの防止や個別に支援を要する児童の実態把握も含めて、前・後期に実施するQ U調査の結果には特に注視していきながら、学級集団の成長を促していく。

○【児童一人一人の体力の向上】昨年度の体力状況調査の結果において全国平均値を上回る種目は全学年で減少しており、特に低学年では大幅に減少した。日常的に運動に慣れ親しんでいる児童とそうではない児童との格差が生じているように思われる。今年度は、児童の運動習慣や体力についての実態調査に基づき、各学年の不得意種目を明確にしながら、その克服に向けて計画的な体力向上の取組を施していく。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止	○	○	○	○	○
3	運動に親しみ体力の向上	○	○	○	○	○

## 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着		4月 区調査目標通過率 80% 年度末到達度診断通過率 80%		4月実施区調査結果 国語／算数の通過率 学校 79.5%／79.5% (2科 79.5%) 2年 80.1%／91.1% 3年 79.2%／81.1% 4年 78.4%／76.5% 5年 86.0%／71.9% 6年 73.6%／79.2%		R4年度比 国語／算数の通過率 学校 81.1%／83.8% (2科 82.4%) 国語 (-1.6%) 算数 (-4.3%) 2科 (-2.9%) ・国語と算数ともに通過率79.5%と、目標である80%にあと0.5%及ばなかった。学年間や学級間での格差が大きな課題となっており、全教員による学力向上の取組を計画的かつ意図的に進めていくことで、日々の授業力向上に努めていく。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	指導方法の改善 学力ポートフォリオの活用	算数	研修 7月 12月 2月	○担任・専科・管理職 区調査、単元テスト結果から児童のつまずきを知り、つまずきを出さない指導の検討・実践を通して指導方法を改善する。	学習到達度診断  実施ごとに結果を報告	単元ごとに 定着率85%以上	単元テスト正答率 学校(国)前83% 後82% (算)前83% 後82% 1年(国)前80% 後77% (算)前87% 後80% 2年(国)前87% 後85% (算)前88% 後91%	・各学年学級において過去のポートフォリオや授業改善プランに基づいた取組を行った結果、正答率の全体平均値は82.5%となった。	△

							3年(国)前77% 後76% (算)前82% 後77% 4年(国)前86% 後87% (算)前79% 後85% 5年(国)前81% 後78% (算)前79% 後75% 6年(国)前88% 後86% (算)前83% 後86%	・学習のまとまりの最小単位である単元で生まれる課題を、即時性をもって日常的に改善していく新たな手立てを組織的に講じていく。	
2 継続	つまずき 補習	国語 算数	すつき りタイ ム 金曜日 年30回 123年生 5校時 456年生 6校時	○担任・専科・管理職 ①4月の区調査結果から未 定着な学習内容を補習す る。(前学年のつまずき)  ②単元末テストの結果から 未定着な学習内容を補習す る。(現行学年のつまずき)	到達度診断 通過率  実施ごとに 結果を報告	①10月までに 通過率90%以上 (区調査前学年) ②3月までに 通過率80%以上 (区調査現学年)	① 学年で時期は異 なるが9月までに 全学年で通過率 90%以上を達成  ②12月到達度診断 国語／算数の通過率 学校 64.5%/65.8% (2科 65.2%) 1年 29.5%/52.0% 2年 70.1%/76.7% 3年 71.2%/57.3% 4年 88.1%/56.8% 5年 55.9%/62.0% 6年 80.0%/82.5%  ②2月到達度診断 国語／算数の通過率 学校 88.9%/86.2% (2科 87.6%) 1年 82.5%/89.5% 2年 92.9%/88.7% 3年 83.4%/85.0% 4年 100.0%/86.4% 5年 87.3%/84.9% 6年 87.6%/82.8%	①早い学年では7月 に通過率90%以上 となったが、夏休 みの課題を通して 9月に全学年達成。  ②現学年の既習事項 について12月時点 で80%を超えたの は、6年生の国語と 算数、4年生の国語 だけであった。授業 を進めつつも、現学 年でのつまずきを 解消できるように 各学年で方策を立て、それに基づいて 苦手箇所の重点的 な復習を行った。  ②12月の結果を受け 児童の実態に応じ た学力補充の取組 を行った通過率に 大きな向上が見ら れた。この状態を新 年度スタートの時 期まで維持したい。	○

3 継続	PU タイム (朝学習)	算数 国語	毎週 火木金 朝 15 分	○担任、学習支援員 音読、読書、読み取り、漢 字、AI ドリル、東京 BD	到達度診断 正答率  実施ごとに 結果を報告	80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12 月到達度診断 国語／算数の正答率 学校 67.3%／ 69.8% (2 科 68.5%) 1 年 51.4%／72.4% 2 年 80.1%／76.8% 3 年 67.7%／61.8% 4 年 72.5%／64.2% 5 年 62.7%／54.0% 6 年 84.5%／74.6%</li> <li>・2 月到達度診断 国語／算数の正答率 学校 81.8%／81.0% (2 科 81.4%) 1 年 86.6%／ 86.5% 2 年 76.2%／ 83.3% 3 年 77.0%／ 77.2% 4 年 85.9%／ 79.5% 5 年 77.4%／ 75.5% 6 年 87.7%／ 84.0%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12 月時点での正答率 は昨年度とほぼ同 じ結果であったが、 同一学年集団の経 年変化において2 ～6 年生では向上 が見られた。1 年生 の正答率が昨年よ り下がっており 様々な出題形式に 不慣れであったこ とが考えられる。</li> <li>・12 月の正答率が学年 や教科によって 50% ～80%以上とばらつ きがあったが、2 月 の正答率は 70%後半 ～80%後半と全学年 共通して正答率を 高い位置に推移す ることができた。</li> </ul>	○
4 継続	学校図書館 の活用	国語	①年間 朝読書 ②年間の貸出 期間中	○児童 ①目標達成者を表彰。 強化旬間を年 2 回実施。  ②読書旬間に図書委員会と 連携し、味見読書など本に興 味をもたせる活動を行う。	読書記録カードに記録  貸出冊数記録	①月 2 冊 年 24 冊読書  ②児童一人当 たりの貸出冊数を 年 12 冊以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校 88% 1 年 100% 2 年 90% 3 年 86% 4 年 97% 5 年 69% 6 年 56%</li> <li>② 学校 (平均 29 冊) 1 年 49 冊 2 年 48 冊 3 年 22 冊 4 年 40 冊 5 年 11 冊 6 年 4 冊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 昨年度 22%上昇して 78%となった達成率は今年度 88%まで向上した。課題であった学年格差は中学年で改善が見られた。貸出差数も含め高学年の読書活動を活発にしていきたい。</li> <li>② 目標の一人当たりの貸出冊数 12 冊以上を大きく上回ることができた。</li> </ul>	◎

5 継続	I C T機器 の活用	全教科	① 週に 複数回 ② 週に 複数回 ③ 半期 に1回以上	○教員 ①児童が児童用タブレット 端末を用いる授業を実施。 ②対象学年児童にA Iドリル による個別学習を実施。 ③プログラミング教育の実 施。	週の学習計画 教員の申告	・実施した教員 の割合各 90%	①前期 75.0% 後期 91.6% ②前期 90.0% 後期 95.0% ③前期 66.7% 後期 83.3%	① 1年生向け出前授 業で低学年児童の タブレット利用に 改善が見られた。 ② A Iドリル強化月 間で目標を超える 500問以上達成。 ③ 昨年度(66.7%)か ら大きく向上。	○
6 新規	学力向上 夕会の設置	算数 国語	毎週 火曜日	○教員 各学年からの学力向上に向 けた取組やその成果と課題 を日常的に情報共有し、学習 内容の系統性も意識しながら 授業改善を図っていく。	月行事予定表 ・週案に明記	年間 30 回実施	毎週の学力夕会では教科主任を中心とした足立スタンダードのポイント確認や授業実践の様々な工夫、学力向上に関わる多くの知見を学年を越えて全体共有することができた。	従来の学力向上の取組からスクラップ & ビルドした今年度新規の取組であった。今後は学力向上との相関を検証しながら、より日常的な授業改善を図る機会としていきたい。	○

<b>重点的な取組事項－2</b>		「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
友達に対して、いつでも優しい言葉かけができる。		言葉遣いアンケート「強い言い方や冷たい言い方にならないよう気を付けている」の児童の割合が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉遣いアンケートで、「強い言い方や冷たい言い方にならないよう気を付けている。」は96%。「相手や場面に合わせて、言葉を使うことができる。」は95%と高い肯定的回答が得られた。</li> <li>一方で、継続した指導にも関わらず、特定の一部児童の言葉遣いの改善が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの年間5回の重点週間の取組により、言葉遣いに対する意識はある程度高まってきた。今後は実施回数を精選しながら、取組期間だけでなく日常的な言葉遣いへの意識向上に重点をシフトしていきたい。</li> </ul>	○
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>

心の教育を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>各々の違いが分かり、認め、生かしていける態度が身に付く</li> <li>QUでの学校生活満足群に属する児童が増える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止対策の一環として、道徳授業を充実させる。</li> <li>お互いの良さを認め合える学級活動を充実させる。</li> <li>縦割り班活動での遊びや異学年との交流活動を行う。</li> <li>オリパラ教育を通して国際理解、障がい者理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳授業地区公開講座ではSDGsで共生社会について学び、実際の学校生活では学級活動による同級生との横のつながり、縦割り班活動では異学年との縦のつながりを深めることができた。</li> <li>QUでの学校生活満足群に属する児童は前期56%、後期54%、平均55%であり、全国平均43%を大きく上回る結果となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たないじめ防止標語の作成や校舎周りへの掲示など、児童が主体となったいじめ未然防止の活動も実施した。</li> <li>学校生活不満足群に属する児童の割合を、後期は学校全体で1.4%減少することができた。</li> </ul>	○
挨拶・言葉遣いの意識を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>すすんで挨拶ができる</li> <li>場に合った言葉に気を付けて遣い分けができる</li> <li>敬称をつけて名前を呼ぶことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導の進捗を確認しながら教員の意識を高め、より良い方法を工夫させる</li> <li>児童の挨拶運動を拡張する取り組みを企画・計画させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学級全児童による登校時のあいさつ活動は定着している。</li> <li>5月から「言葉遣い重点週間」を年5回実施し、道徳・学級活動の時間に事前・事後指導を行った。</li> <li>「言葉遣いアンケート」で、「相手や場面に合わせて、言葉を使うことができましたか。」の肯定的解答値は98%だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動や言葉遣い重点週間期間中は言葉遣いに対する意識の向上が見られるが、「いつでも」・「どこでも」・「誰にでも」という日常化が次の課題となる。</li> </ul>	○
特別活動を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価で肯定的に評価できる</li> <li>努力している自分を認めることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の活躍の機会を増やし、自己肯定感・自己有用感を高める</li> <li>めあてをもって行事に取り組み、自己の取組について過程や結果を振り返らせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査において自己肯定感は全国平均よりやや低いものの、「人が困っているときにはすすんで助ける」の肯定的回答が94.7%と、自己有用感の入り口となっていく他者への意識が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年以上に児童集会の内容が充実したものとなり、それをきっかけとして児童の主体性を生かした特別活動が活発に行われるようになった。</li> </ul>	○

<b>重点的な取組事項－3</b>		健康な体づくりと体力向上			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	

<p>すすんで運動しようとする態度を育てる</p>	<p>体力状況調査結果で全国平均を下回る種目数を、昨年の8種目中5種目（平均）から4種目に削減する。特に全学年の男女で下回ったシャトルランとソフトボール投げについては体力向上委員会で具体的な策を検討していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均を下回った種目数 1年 男子7 / 女子6 2年 男子7 / 女子5 3年 男子4 / 女子4 4年 男子6 / 女子2 5年 男子8 / 女子4 6年 男子5 / 女子5</li> <li>・各学年男女平均で昨年度同様8種目中5種目が下回る結果となり、削減できなかった。</li> </ul>	<p>昨年度全校での大きな課題であった3種目中2種目で改善が見られたが、別の2種目が新たな課題となった。次年度は目標を全国から都の平均値に変更すると共に、調査種目については調査時だけでなく年間を通じて取り組む策を講じていきたい。</p>	<p>△</p>
---------------------------	--	---	--	----------

## B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>体育授業の充実</p>	<p>・昨年度体力状況調査結果で全国平均を下回った種目を1種目減らす。</p>	<p>・めあてをもって体育の学習に取り組み、自己評価しながら運動を工夫するための「体育学習ノート」の実施率を向上させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と今年度の体力状況調査結果に大きな差異は認められなかった。新たな課題は瞬発力と柔軟性であり、2年連続で持久力が課題であることが明らかになった。</li> <li>・学習ノートを利用した授業の実施学校平均68%（昨年度80%） 1年 50% 2年 50% 3年 95% 4年 80% 5年 80% 6年 50%</li> </ul>	<p>プロ野球選手による投げ方教室、外部講師を招いての走り方教室など体力向上への様々な工夫を試みた。しかしコロナ禍での児童の体力低下は想像以上のものであり、体育授業の充実だけで改善を見込んでいくことは難しい。家庭との連携が必要である。</p>	<p>△</p>
<p>体力向上のための行事の充実</p>	<p>休み時間に校庭に出て運動に取り組む児童の数を増やす</p>	<p>・年間を通して運動が継続できるように体育的行事の内容や方法を改善するとともに、児童の主体的な活動場面を増やすよう工夫していく。</p>	<p>・マラソン練習、大なわや短なわなど体育的行事の活動中は、教員も一緒に活動を盛り上げて運動に取り組む児童が増えていった。しかし夏場の酷暑の中では、外での活動自体が危険な状態である。</p>	<p>年間を通じた体力的行事は限られていることから、現在の取組をより効果的な方向で定着させていくことが大切である。</p>	<p>○</p>
<p>運動に向かう環境づくり</p>	<p>運動する場に参加する児童数を増やす</p>	<p>・休み時間の中で友達と一緒に楽しく遊びながら体づくりができる学級あそびを企画して、その機会を増やしていく。</p>	<p>・担任からの働きかけもあり、マラソン大会や短なわ・長なわ大会等の体力向上に向けた行事前には休み時間に練習する児童の姿が見られた。</p>	<p>定期的に学級あそびを行ったり、夏場の休み時間には体育館で体を動かす遊びを行うなどさらなる工夫が必要である。</p>	<p>○</p>

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ○【児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着】

「児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着」を目指して、算数では全学年で学力ポートフォリオを活用した研究授業と研修会を今年度も実施した。管理職から各授業者へは授業観察に基づいた更なる授業改善についての指導・助言を行い、全体研修会ではつまずきの原因分析に留まらず、各学年から具体的な問題を一題選び出してその効果的な指導方法についての改善提案を行い、全教員で検討・確認・共有を行った。これまで蓄積された学力ポートフォリオによる授業改善を日常化させるため、「つまずかせない授業づくり」を学力向上のメインテーマとして取り組んでいった。

国語では「書くこと」についての研究が四年目に入り、相手意識・目的意識・場を明確にさせることに推敲の視点も加え、児童が自分の考えを意欲的に文章に書けるよう指導方法の研究を行った。一方で学力調査等の結果からは、限られた時間内で問題を解くために必要な語句への着眼点や、求められる条件に応じた答え方などが課題となっている。文章の主旨を短時間で掴んだり、問われている内容に正対するなど、書くことに留まらず、その力を学力として発揮するために必要な力も育んでいかなければならない。

弘一タイムやすっきりタイムでは、漢字の読み書きや語彙の修得、朝読書、四則の計算練習等を通じて基礎基本の徹底について取り組んできたが、次年度は使用頻度が上がってきたA Iドリルを活用しながら個別最適化された学習を一層推進していく。また「教師の授業」と「児童の学力」の相関をできるだけ短いスパンで振り返る日常的な機会として、今年度新設した学力夕会を継続実施しながら各教員の主体的な学力向上策を講じていく。

#### ○【人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止】

今年度も全学年児童で実施した「あいさつ活動」は本校の特色となって定着している。校内においてはコロナ禍で滞っていた縦割り班活動や児童集会が再開するだけでなく、その内容が一層充実しており児童の自治力も高まっている。PTAや開かれた学校づくり協議会主催の各種イベントは自他を尊重する児童の心の成長に大きく貢献しており、自然で望ましい異学年交流が数多く見られた。また、年間を通じて展開している「言葉づかい重点週間」については、これまでの成果を毎日の学校生活の中でより定着させるために、次年度は回数を精選しながら長いスパンで取り組んでいく。

また学校で児童が一番長い時間を共に生活する場である学級は、その集団としての成長が、授業での学力やいじめの未然防止に大きく関わってくる。集団内で個別の支援要する児童やいじめ防止のための実態把握に向けて、前・後期に実施するQ U調査の結果には次年度も引き続き注視していきたい。

#### ○【児童一人一人の体力の向上】

昨年度の体力状況調査の結果において全国平均値を上回る種目は全学年で減少しており、特に低学年では大幅に減少した。課題であった3種目中2種目（握力・投力）については今年度改善が見られたが、同時に2種目（瞬発力・柔軟性）が新たな課題となった。コロナ禍の影響が少なからずあると考えられ、中・長期的な対策が必要となっている。連合体育行事で活躍する日常的に運動に慣れ親しんでいる児童とそうではない児童との格差が生じていることも本校の特徴であり、実態調査に基づいた日常的な体力向上の取組を施していかなければならない。

#### ○【ICT機器の活用】

全児童が学校と自宅でタブレット端末を使用できるようになり、子供たちが教科書やノートと同様にタブレットをツールとして学習に使っている姿は日常的なものとなっている。課題であった1年生についても今年度は「はじめよう！はじめてのChromebook 出前授業」をきっかけとしてタブレット使用を開始することができた。児童がタブレットに慣れ親しんでいる中、授業者の習熟によってタブレットの活用状況に差異が生じないよう、今後も教職員の研修会で活用方法等の共有を進めていく。一方でタブレット端末やデジタル教科書は決して万能ではなく、学習内容や学習場面に応じて従来の指導方法と明確に使い分けていく必要があることも忘れてはならない。A Iドリルにおいては強化月間に目標の一人あたり300題を超える500題の問題に取り組ませることができたが、学力向上との相関に基づいた効果的な活用を検証していく必要がある。

またSNSなどによる教師や保護者に見えづらい場でのトラブルが増え、生活指導上で好ましくない情報が児童の間で行き交っている現状を踏まえ、今後は保護者も交えた情報リテラシー教育をさらに拡充させていく必要がある。



## (2) 保護者や地域へのメッセージ

- 本校では、開かれた学校づくり協議会が主催者となり、日本漢字検定協会の漢字検定や日本数学検定協会の算数検定の準会場として、今年度も検定試験を実施することができました。平成25年9月より始めた漢字検定の全員受検を目指した廃品回収は、令和に入った現在も継続しています。日常的に多くの保護者や地域の方々が、古紙やアルミ缶を持ち寄ってくださり、その収益をもとに今年度も2月に2～6年生全員が、ご家庭からの負担なしで漢字検定を受検することができました。この取組は創立50周年を機に基金が設立され、平成30年度足立区ビューティフル・スクール運動の特別表彰を受賞しました。今後も令和7年度の創立60周年を目指して、皆様のご協力のもと引き続き実施していきたいと考えています。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。
- 開かれた学校づくり協議会やPTA・地域の皆さまと協働して、コロナ禍にも関わらず子供たちのために様々なイベントを実現することができました。以下に主なものを挙げさせていただきますが、普段の学校生活では見られない子供たちの笑顔をたくさん目にすることができ感謝しております。
- ・ 6月19日(月) 道徳授業地区公開講座…JICAの辻研介氏を講師にお迎えして、児童・保護者・地域の皆様でSDGsについて学びました。
  - ・ 7月22日(土) カレーランチ会①…感染症予防対策を施し、低学年児童が学校の畑で収穫された夏野菜のカレーを美味しくいただきました。
  - ・ 7月29日(土) PTA夏祭り…金管バンドの演奏で華々しくスタートし、児童はPTA・地域・教職員のブースで楽しい夏休みを過ごしました。
  - ・ 8月21日(月)～31日(木) 朝のラジオ体操…近隣町会の皆様と子供たち、老若男女が一堂に会して朝からラジオ体操で体を動かしました。
  - ・ 11月10日(金) 弘一落語会…林家たけ平師匠をお招きして、4・5・6年生が落語鑑賞をさせていただきながら想像力を豊かに育みました。
  - ・ 2月 3日(土) カレーランチ会②…7月に続き、高学年を中心に季節感ある冬野菜を使ったカレーで楽しく美味しい思い出づくりができました。
- このようなイベントに加えて毎月一回、子供たちの安全安心のために学校・PTA・警察・地域のたくさんの皆様にお集りいただき、地域パトロールを実施させていただきました。弘道の宝物である子供たちを、地域の皆様全体で見守っていただけることを大変にありがたく感じております。
- 弘一プレイランド(あだち放課後こども教室)では子供たちが安心・安全に放課後を過ごすことができるよう、スタッフの皆様が日々ご尽力してくださっております。また、土曜事業のコアラクラブの皆様からも、活動の再開に伴い多くのお力添えをいただいております。こうした皆様からのご尽力のおかげで、弘道第一小学校の子供たちの心と身体の成長は支えられております。今後とも皆様の力強く温かなご支援・ご協力を賜れますよう、引き続きよろしくようお願い申し上げます。

## (3) その他(学校教育活動全般について)

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、コロナ以前に近い形での教育活動を再開することができるようになりました。しかし単なる再開ではなく、困難なコロナ禍で得られた知恵や工夫をプラス面で活用したスクラップ&リビルドを大切にしていまいりました。特に後期の三人行事である運動会、マラソン大会、音楽会では、より多くの保護者や地域の皆様に、より近い距離から当該学年のお子様たちの活動を参観していただくことが叶いました。学校としての一体感が得られた行事後のアンケートでは、教職員に対する労いの言葉が多数寄せられ、我々の大きな励みと自信になりました。また、いただいた貴重なご意見やご要望については、改善に向けて検討を進めてまいりますので、今後とも一層のご理解とご協力をよろしく願いいたします。
- 5年生の鋸南自然教室・6年生の日光自然教室は今年度も2泊3日で実施され、学年児童全員が安全かつ健康に、充実した宿泊行事を成功させることができました。また各学年の遠足や社会科見学、校外学習なども、学年教員が子供たちのために工夫した計画通りに実施することができました。
- 縦割り班活動など本校の特色でもある異学年交流活動も通常通り実施できました。今年度は児童の自主性を大切にしながら行われていく中で上級生のリーダーシップが今まで以上に発揮され、学年を越えた笑顔あふれる学校ならではの素晴らしい光景が、様々な場面でたくさん生まれました。
- 「音楽会」では子供たちの歌や演奏を通して、大変に心豊かな時間を創り出すことができました。そしてそこには子供たちの真っ直ぐな努力、教職員の愛情あふれる指導、保護者の方の心強いサポートや地域の方の温かな見守り、そういったものを随所に感じるすることができました。感動はもちろんのこと、弘道第一小学校の学校としての一体感を強く感じることもできた音楽会に改めまして感謝申し上げます。どうもありがとうございました。